

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・校内研修を通じて、「学びのつながりを意識し、自分の考えを広げ深められる児童」の育成を目指す。 ・教科横断的な視点を意識するとともに「個別最適な学びの観点」並びに、「協働的な学び」の観点を教育課程の中に取り入れる。
思考・判断・表現	・過去、現在という時間の流れの中で自分自身の学びを振り返り、その振り返りを未来の自分へとつなげられるという、学びのつながりを重視する。 ・単に課題を解決するだけでなく、他者との関わりを通じ、自分の考えを広げたり深めたりできる児童の育成を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	・めあてに対して「うまくいったのか、そうでないのか」という観点で学習を振り返る経験はある。学び方は適切だったか、その時間のめあてを達成するために自分の学習能力は満足するものか、達成できない際はどのような力が足りないのかという振り返りを実践する。 ・活動の観点を明確にした対話的な活動の場を設定した結果、活動を通じて課題を解決し、対話的な活動の有用性を自覚している児童が多い。一方で対話的な活動を通じて一様の解決はできていないが、自身の考えに満足できていない児童、または解決はしたもののさらに改善の余地を自覚している児童がいることが予想される。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「国語・算数の「知識・技能」の自校結果を、R4年度全国学力・学習状況調査及びR元年度さいたま市学習状況調査の値より向上させる。	⇒ ・校内研修を通じて、個の学習状況を正確に把握できるスキルの向上を図る。 ・個の状況に応じ、学習の個性化を充実し、個別の補習等の実践を行う。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「国語・算数の「思考・判断・表現」の自校結果を、R4年度全国学力・学習状況調査及びR元年度さいたま市学習状況調査の値より向上させる。	⇒ ・対話的活動と思考・表現活動を結び付ける場を設ける。 ・活動の観点を明確にし、児童が自ら学習の方向性を選択する場を設定し、主体的に活動に取り組めるようにする。 ・振り返りを通して自己の成長を自覚させるとともに、上記活動の有用性に気付かせ、次時へと繋げる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4年度の値より向上させる。	⇒ ・個別最適な学び(指導の個別化)を充実させ、児童に「できた」という実感をもたせる。 ・主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業改善(宮前スタイル)に学校全体で取り組む。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査「知識・技能」の自校結果は、R4年度と比較し、国語は0.6ポイント増加、算数は-5.1ポイント減少であった。R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」の自校結果は、R4年度と比較し、国語で-3.7ポイント減少、算数で+1.4ポイント増加であった。	B
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」の自校結果は、R4年度と比較し、国語は-3.2ポイント減少、算数は-7.2ポイント減少であった。R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」の自校結果は、R4年度と比較し、国語は+1.8ポイント増加、算数は-2.7ポイント減少であった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「国語・算数の勉強は好きですか」の自校結果はR4年度と比較し、国語は+5.2ポイント増加、算数は-0.8ポイント減少した。R5年度さいたま市学習状況調査の「国語・算数の勉強は好きですか」の自校結果は、R4年度と比較し、国語は+3.7ポイント増加、算数は+8.9ポイントの上昇結果となった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+0.6ポイント増加、算数-5.1ポイント減少であった。
思考・判断・表現	算数において、日常生活に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がみられる。日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導することが大切である。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「国語、算数は好きですか」の質問項目の肯定的な回答の割合は、74%、61.4%で、国語は目標値を上回ったが算数は目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R4年度の自校結果と比較し、「知識・技能」は、国語で-5.4ポイント減少、算数で+2.8ポイント増加であった。「思考・判断・表現」では国語で+6.8ポイント増加、算数で-1.4ポイント減少であった。また、「国語、算数の勉強は好きだ」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、国語は-9.8ポイント減少、算数は-0.7ポイント減少であった。国語の課題は「読むこと」である。	小4	R4年度の自校結果と比較し、「知識・技能」は、国語で+6.2ポイント増加、算数で+6.5ポイント増加であった。「思考・判断・表現」では国語で+5.3ポイント増加、算数で-4.7ポイント減少であった。また、「国語、算数の勉強は好きだ」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、国語は-10.5ポイント減少、算数は10.6ポイント増加であった。算数の課題は「変化と関係」「データ活用」である。
小5	R4年度の自校結果と比較し、「知識・技能」は、国語で+1.1ポイント減少、算数で-0.7ポイント減少であった。「思考・判断・表現」では国語で-4.3ポイント減少、算数で-0.6ポイント減少であった。また、「国語、算数の勉強は好きだ」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、国語は+3.7ポイント増加、算数は+25.5ポイント増加であった。算数の勉強が好きである。	小6	R4年度の自校結果と比較し、「知識・技能」は、国語で+2.4ポイント増加、算数で-2.9ポイント減少であった。「思考・判断・表現」では国語で-0.7ポイント減少、算数で-4.1ポイント減少であった。また、「国語、算数の勉強は好きだ」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、国語は+10.2ポイント増加、算数は+0.2ポイント増加であった。国語の勉強が好きである。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ ・校内研修を通じて、個の学習状況を把握できるスキルの向上を図る。 ・個の状況に応じ、ドリルやドリルパーク、個別の補習等の実践を行う。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ ・対話的活動と思考・表現活動を結び付ける場を設ける。 ・それぞれの場における活動の観点を明確にし、児童が見通しをもち、主体的に活動に取り組めるようにする。 ・振り返りを通して自己の成長を自覚させるとともに、上記活動の有用性に気付かせ、次時へと繋げる。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ ・個別最適な学び(指導の個別化)を充実させ、児童に「できた」という実感をもたせる。 ・主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業改善に学校全体で取り組む。 ・書くことによる「見直し・振り返り」の学習活動を計画的に取り入れ、自身の学びの状況を客観視させる。